

産地・直売所等の情報を集め広く公開し農を考える

垣尾 稔

活動の概要

価格重視の安易な販売競争の末、生鮮食品を海外から多量に輸入し、結果その安全性に多くの疑問が持たれている。また、それらの自給率も下がり殺生権をも海外にゆだねることになりかねない。

この神戸には、自然あふれる大地の恵み豊かなところが一杯あることを再認識し、現状を把握し、多くの皆様に色々な施設を紹介することにより、豊かな自然とふれあい、収穫を喜び、豊かな味わいを楽しんでいただけるようなきっかけを作る活動を目指した。

活動状況

体験と書き込みのための「農都・神戸マップ」の作成と発行。

活動を進めていく上での課題

マップを作成する段階で情報の収集が時間的な制約もあり、所属団体の申請を中心とせざるを得なかったが、もう少し時間をかけての実践取材行動が必要と感じた。

活動して良かった点

マップ作りを通して神戸地域の活発な農・漁業の現状を知ることが出来たとともに、委員間の交流を含め親睦を深め人のネット作りが出来た。

今後の計画

農都・神戸の産地、直売所、朝市や貸農園などを訪ねて体験し、自分たちの手で食材を味わう機会を紹介するなど、参加型実践活動となるのですが、今年度で就任期間が終わりますので、計画は有りません。

その他報告すべき事項・提案

農都・神戸を考えるグループのビジョン委員の構成は産地と消費地のバランスが取れている方が良いと思われる。

農都・神戸

西田 和馬

活動の概要

神戸市内に点在する農産物直売所のマップ作成

活動状況

毎月一回。昨10月完成。

活動を進めていく上での課題

知らない所に沢山の地産地消があった。

活動して良かった点

西区、北区の広い範囲内に点在する、又最近地産地消で注目を集めて来た直売所が知られないままだったのが、マップの中に発見出来た。

今後の計画

多くの方が地産地消の実践をすべき。そのための広報活動。

その他報告すべき事項・提案

農産物の本当の味を知らしめる。

環境・自然

藤井 清己

活動の概要

農都・神戸づくりグループ

地産地消をテーマに、神戸の直売所・市民農園等の情報をまとめる

環境・循環型社会グループ

環境問題を考え、生ごみの堆肥化のモニターを行う

活動状況

農都・神戸づくりグループ

西区・北区の直売所・市民農園等のマップを作った。調査は西区を担当

環境・循環型社会グループ

生ごみ堆肥化装置「グリーンエコ」を実際に使い、堆肥化に取り組む

活動を進めていく上での課題

仕事の都合上、会合等が平日になると出席しにくい。

農都の方は、会合が平日の昼間だったので、あまり出席できなくて申し訳ないと思う。

環境の方は、会合が夜だったので出席しやすかった。

活動して良かった点

一人ではできなかった事も人数が集まると同じ目標を持って活動できるので最後までやりとげる事ができよかったと思う。また、色々な活動に参加する事で新しい知識や人の輪の広がりができて良かった。

今後の計画

この2年間の成果を元に次へ進めるため、再度ビジョン委員に応募しました。今までの2年間は色々なグループに顔を出していたため、中途半端になりがちだった。今後は今までの活動を元にして次のステップへと進みたいと思う。できれば環境について活動を進めたいと思っています。

神戸の漁業と魚食普及

柴 宏有

活動の概要

神戸の漁業（都会の漁業）を紹介し、漁業に対する理解を深めるため、小学校、中学校、又高等学校生徒に漁業の紹介をおこなう。また、組合女性部による、イカナゴくぎ煮講習会、料理講習会を通じ、魚食普及活動をおこなう。

活動状況

漁業を少しでも理解していただく為、小学校の社会見学の受け入れ、中学校のトライやるウィークの受け入れ他を積極的に行い、また、漁業の説明に出向いた。

魚食普及活動では、イカナゴくぎ煮講習会、料理教室を実施。

活動を進めていく上での課題

個人としてできる事には限度があり、職場全体での理解、協力が必要。

魚食普及については、魚を自分でさばき、料理する機会が減った事。

活動して良かった点

神戸という都会にも水産業があり、大阪湾でたくさんの漁業がある事を少しでも理解していただけたこと。

今後の計画

魚への理解を深め、もっと魚食普及を進め、消費を増やしたい。

地元にも、新鮮でおいしい魚がたくさんある事をアピールしたい。

六甲山を活かすプログラム

堂馬 英二

活動の概要

初年度は県民行動プログラムを設定して提案したが、2年目以降は可能な範囲で行動プログラムを実施した。行動プログラムの提案をしたものの、予算化もできず実施主体者も見当たらず、県の施設である六甲山自然保護センターを県民活動の拠点として活用することを目指し、第1期の有志で運営グループを設立した。3年目以降は、神戸県民局と地域ビジョン委員・六甲山グループが協働でイベントやマップづくりを進めた。運営グループは「六甲山自然保護センターを活用する会」（以下「活用する会」という市民活動団体に組織化し、「六甲山魅力再発見市民セミナー」の開催や周辺地域の清掃整備を継続している。

4年目は第2期地域ビジョン委員にリーダーシップを移行した。地域ビジョン委員が持続的に活動するための受け皿になる「活用する会」と連携することが今後の課題になる。

活動状況

1. 「六甲山の楽しみ発見」ウォーキングの継続開催

「六甲山の楽しみ発見 親子編2」平成16年 7月25日

「六甲山の楽しみ発見 紅葉編」平成16年11月 7日

「六甲山の楽しみ発見 樹氷編」平成17年 2月20日

2. 「六甲山自然保護センターを活用する会」の活動

第2期の「六甲山魅力再発見市民セミナー」開催

「六甲山に生涯学習のフィールドをつくろう」というキャッチフレーズで、バラエティ豊かな市民セミナーを展開した。前半の6ヶ月（13回～18回）は「生涯学習への導入編」、後半の6ヶ月（19回～24回）は「生涯学習に実践編」と位置づけた。第13回から23回までの参加者は310名。

記念碑台と周辺散策コースの清掃整備

4月から、市民セミナーの参加者有志に働きかけて、開催日の午前中に清掃整備を実施。自然保護センターのある記念碑台の広場と周辺の清掃、および近畿自然歩道と近辺の散策コースの清掃や整備をボランティア活動として毎月続けている。参加者は6名～12名で、時には自然観察会に早変わりすることも。

特別企画「六甲山の冬をあそぼう」平成17年 1月23日

子供たちに六甲山の冬を体験してもらおうという試み。子供41名、大人37名、総勢78名が神戸市立六甲山小学校に大集合した。

活動を進めていく上での課題

地域ビジョン委員満了後は「活用する会」の活動を充実していくことになる。「参画と協働」に賛同した行動プログラムを体現する努力をしてきたので、今後も行政との連携を図ることが前提になる。また、地域ビジョン委員会の六甲山グループの活動が地道に定着し、広がっていくことを期待している。新メンバーが斬新な試みをされることを支持・支援していくつもりである。そのような観点からいくつかの課題を挙げてみる。

1. 第2期地域ビジョン委員への期待と連携

出発点は県民行動プログラムに置きたい

県民行動プログラムの提案の具現化を試みるには、人材や資金や施設などの資源が必要になり、どうしてもできる範囲の小さなことに収束しやすい。手つかずのことは沢山あるので、委員の方なりに斬新な試みをして欲しい。

「六甲山自然保護センターを活用する会」を活用されたい

「活用する会」の活動で、六甲山に関わる情報や人脈などを蓄積している。「活用する会」の活動に積極的に加わっていただくのは大いに歓迎したい。地域ビジョンOBの団体なので、これまで実施してきた行動プログラムの運営協力や、新たな試みに協力していきたい。

2. 神戸県民局への期待と連携

「六甲山の楽しみ発見」ウォーキングの運営移管を図る

地域ビジョン委員ならびに「活用する会」への運営委託を検討していただきたい。

六甲山自然保護センター活用への連携を進める

六甲山における市民参画の活動にもっと考慮が必要である。

活動して良かった点

地域ビジョン委員に加わって4年足らずであるが、地域ボランティア活動に踏み込んでいけたことが良かった点でもあり、リスクを背負ってしまった反省もしている。県民行動プログラムをとりまとめる役割を担ったことから、実践活動に踏み込むことになった。市民の参画と行政との協働を前提にしてきたが、行政の担当者が交替すると途端に連携が取れなくなるという実感も味わっている。

1. 「活用する会」を設立し継続的な活動ができた

80人近い会員と200万円弱の事業予算、そして継続的な活動をするようになった。

2. 地域ビジョン担当との関係プレーが実った

「六甲山の楽しみ発見」のバラエティ豊かな試みや、各種のガイドマップの制作という具体的な成果と産物ができあがった。参画と協働のモデルケースといえそうである。今後もこの関係を大切にしていって欲しい。

3. 六甲山に関わる人との交流が進んだ

他の地域ビジョン委員の方々、「活用する会」で講師をお願いしたの方々、地域住民の方々、活動に参画していただいた方々など、多くの方と親しくなり交流の輪が広がった。

今後の計画

1. 「六甲山魅力再発見市民セミナー」第3期以降の開催

ようやく、第3期12ヶ月の市民セミナーの講師とテーマを決定できた。第3期終了後には、3年分の報告書をまとめて出版するという目論見を温めている。

2. 記念碑台と周辺の散策コースの清掃整備活動

森林整備事務所との調整ができれば、ボランティアの参画を募って活動を充実させたい。

3. 生涯学習イベントの開催

六甲山を舞台に、環境教育、体験学習、総合的な学習を包括した生涯学習を展開していきたい。そして、「スローライフ」をキーワードに、六甲山の楽しみ方を市民に広げていきたい。

その他報告すべき事項・提案

1. 市民活動の実態は助成金が頼り

地域ビジョン委員の活動、「活用する会」の活動など、いずれも時間と費用は自己負担のボランティア活動になる。助成金を得るには相応の自己資金も必要になり、隘路を埋めることにエネルギーを費やすことになる。

2. 地域ビジョン委員の継続的な活動が大切

地域ビジョン委員として地域・社会活動に参画する試みは賛成できる。「活用する会」のように、地域ビジョン委員を満了した後も活動を継続するには、この仕組みの改善も考えられる。六甲山グループが持続するのであれば、第1期・第2期、それ以降も連携していけるのが望ましい。

3. 行政と市民活動の連携が重要

われわれの試みは行政と協働するという実りを得ることができた。半面で、六甲山自然保護センターの活用についての運営業務を受託することを考えたが、実現はしなかった。思い切って市民の智慧と汗に委ねることも必要だ。



六甲山自然保護センターの活用

桑田 結

活動の概要

「自然との共生とのシンボル・六甲山」というテーマで活動しました。国立公園という恵まれた環境でありながら、近年の六甲山は、その存在価値が大きく変化をした。それは、保養所の閉鎖が続き、半減したように思う。私が、このビジョン委員に参加した理由は、このように、保養所が閉鎖される現状を良い機会ととらえ、一般県民がもっと自由に楽しめる環境作りをしたいと思います。車でなく、歩いて楽しめる六甲山、自由に家族でグループで遊べる広場などのある六甲山。このような中から六甲山の自然を感じて欲しいのです。都市から、これほど近いところにある、豊富な自然環境の中に、どしどし入って欲しいのです。その拠点として、六甲山自然保護センターを活用して、いろいろな行事を展開してきました。

活動を進めていく上での課題

現在、記念碑台の下に建設中の建物は、案内所になるのでしょうか？上にある自然保護センターとは、別の物ですか、それとも連動するのでしょうか？連動するのであれば、活用する会の中で、運営方針を話し合っ欲しいです。（ビジョン委員の意向は、どのように取り入れていただけるのか）

活動して良かった点

民間（阪神・阪急）の営業力の限界。行政の、いままでの無策。唯一つ、神戸市が登山道の整備に力を入れているのが良くわかった。

今後の計画

今後の願いとしては、自由に遊べる広場が欲しいですね。車を降りて、1～2時間で廻れるハイキングコースの案内図。ボランティアが、力を合わせて、六甲山の活性化に努力したいと思います。

その他報告すべき事項・提案

県・市が力を合わせて、事業展開して欲しいです。今後も、六甲山の活性化には協力したいと思いますので、よろしくをお願いします。

六甲山を活かすプログラム

木谷 輝子

活動の概要

2期地域ビジョン委員として、1期の六甲山グループの活動に参加。
六甲山自然保護センターの存在、活用、PR。
六甲山をより多くの人に親んでもらい、足をはこんでもらい、楽しみを発見してもらえようPR。

活動状況

毎月1回、県民局での企画会に出席。
六甲山自然保護センター周辺マップ作りのための現地調査。
マップ作り作業、配布
県民局の六甲山楽しみ発見マップ（東部、中部、西部）マップ作りの現地調査に参加、配布。
県民局の「六甲山の楽しみ発見」下見と、当日参加進行。
夏休み親子編 7/25...「五感を総動員してたくさんのもを発見しよう」
紅葉編 11/7...「俳句を作ろう」
樹氷編 2/20...「樹氷を見て、有馬温泉に入ろう」

活動を進めていく上での課題

1期の委員がたち上げられた「保護センターを活用する会」とどの様にかかわってゆけばよいのか。とりあえず行事連絡、相談にのってもらい、私達も出来るだけ参加してゆきたいと思う。

活動して良かった点

- ・好きな六甲山に委員としてかかわることが出来たこと
- ・六甲山にいろんな面で詳しく親しみ、楽しんでいる人達との出会い

今後の計画

マップを使いセンターを知ってもらいより多くの人に六甲山の楽しみを発見してもらえよう、2期メンバー4人と新しい3期の委員と智慧をしばり参画、協働してゆきたい。

その他報告すべき事項・提案

近畿自然歩道文化クラブ兵庫（会長蓮沼氏、H14.9設立）の一員として、H15.12に出版された「ひょうごの自然歩道ガイド」県内65コース、自然と歴史にふれる道を利用する県民の視点で安全に気軽に利用出来るよう県と協働し、盛り上げていこうと「参画・協働」の実践住民組織として毎月第3日曜日に歩いています。

兵庫県歩け歩け協会（理事長熊原氏）の一員として毎週月・木曜日、歩くことを生涯学習の場として、心身共に健やかで自然とふれあう、生きがいつくりの場を展開しています。あなたも参加しませんか？

六甲山を活かすプログラム

田中 敏子

活動の概要

第1期生により組織された「六甲山自然保護センターを活用する会」が月1回「六甲山魅力再発見市民セミナー」を開催し、受講生と共に山の清掃整備活動も行っている。

県民局と地域ビジョン委員により「六甲山の楽しみ発見」のウォーキングをプランし、市民参加者と共に各自の目を通して発見した魅力のスポットや気づいたこと等参考資料としてガイドマップを作成。

ガイドマップの活用として「六甲山の楽しみ発見バスツアー」を3回行った。

夏（7月）親子編...親子で夏の山を歩く。

秋（11月）紅葉編...山上で俳句を。

冬（2月）樹氷編...六甲で樹氷を探し感激を味わう。

活動状況

平成15年7月頃より「楽しみ発見マップ」作成の具体的な活動が始められ現地調査を行う。

月1～2回位のミーティング及び、随時メンバーの都合のつく時に集まり、資料整理やマップの様式、形態、既存のマップと比較等を繰り返し、意見交換を行った。

その結果六甲山系を3分割し、（東編、中央編、西編）扱い易い大きさに折りたたんだ形のもの、ミニポケットサイズのもの2種類の「楽しみ発見マップ」が完成。

又、自然保護センター、グルーム碑、記念碑台の広場と周辺の散策路をいやしの散策路と名付けたマップも作成し、市民参加を呼びかけ、楽しみ発見バスツアーを行った。

活動を進めていく上での課題

メンバーの人数について、無理なく運営できる人員確保が大切。今年度はそれが円滑に行われたと思っている。

活動して良かった点

- ・六甲山に対する認識と愛着が深まった事。
- ・いろいろなキャリアを持つ人と巡り合えたこと。
- ・知人、友人に六甲山の魅力をアピール出来た事。
- ・県民局が身近に感じられるようになった事。

今後の計画

- ・「楽しみ発見マップ」の活用を図る。
- ・子どもたちに六甲山の存在を植え付けたい。
- ・子どもたちに六甲山の楽しみを味わってもらえるようなプランを考え、実践していきたい。
- ・春夏秋冬の山の自然をより多くの人に知らせるためのプランを考えたい。
- ・山を愛する心を育て人々との交流の輪を広げたい。

その他報告すべき事項・提案

- ・グループ水仙では、よりよい公共トイレの普及を願って資料集めをしたり、時々会を持ち話し合いの場をもって活動を続けています。
- ・記念碑台、自然保護センターを中心に登山者が常に足場として使用できるレストハウスのようなものが出来ればよい。

自然と融合した循環型の地域づくり

津田 實

活動の概要

自然との共生とのシンボル・六甲山のグループの一員として活動した。

国立公園に組み込まれている六甲山を市域に抱えている神戸市民が、この優れた自然環境を十分に認識、利用出来ているとは思えないので、市民一般がこの好環境を普段に利用することが出来るようになる一助になればと思い、このグループに加わり、その活動に参加させていただいた。

活動状況

任期中、ほとんど毎日のように開かれた県民局での企画・検討会に出席した。

このグループメンバーとして「六甲山の楽しみ発見マップ(3部作)」と「六甲山自然保護センター周辺散策マップ」づくりに参画した。

春夏秋冬を通じて行った「六甲山の楽しみ発見」行事にスタッフの一員として参加・活動した。

活動を進めていく上での課題

千メートル足らずの六甲山という手近の山を中心とした山並みが、大都市神戸の至近位置に背山として連なり、四季折々に優れた自然の装いを満喫させてくれる。この恵まれた自然環境を、一般市民が安全に利用する方策にはいかなる良策があるのか。安易に山に親しむべし戸とのみ発信すると事故の増大につながる恐れもある。

折角の県施設「六甲山自然保護センター」のより一層の活用方策は。

「保護センターを活用する会」と「ビジョン委員会」との望ましい関わり方は。

活動して良かった点

六甲山の楽しみ発見に参加された若いご夫婦が、連れの小学生の子どもと共に嬉々として楽しみ発見にいそしんでおられるのを見て、極めて微笑ましく思った。

山上で六甲山に造詣の深い識者の方の、現地(物)に則した解説を聞きながら、四季の山上を散策出来、スタッフの一員たる事を忘れ、疲労よりも喜びを味わい得た。

今後の計画

10人程度の第2期委員で実施してきたこの2年間の活動の中で、継続して毎年実施が可能で、かつ望ましいものとして、四季折々の六甲山の楽しみ発見ウォーキングがあると思っている。

市内商店街の活性化と事業者の高齢化対策（葺合市場商店街連絡協議会）

桑山 鉄男

活動の概要

第1次ビジョン委員に参加して、「国際経済と神戸の商業」に関連した活動に仲間入りさせて頂いて、積極的に参加させて頂き、あることに気づき、2次では「神戸経済の活性化」と「高齢者のお世話」と言う2つの提案項目に所属させて頂くつもりでした。

しかし、どちらも正当な参加はしておりません。

理由は、当初、「神戸の事業者」と、「高齢者のお世話」というテーマを連結させる事に、自分なりに構想を持ったため、両方に参加して、何かが出来上がらないかと考えていました。

ところが、会合が同じ日、同じ場所で開催されると、どちらかの片方だけに参加するしかなく、片方に出席しているときに、気持ちが別の方に行くと言う気の多い浮気者状態でした。結果として、どちらにも参加しにくくなったのが現実です。

しかし、このビジョン委員会も2次が発足する頃に、自分なりに気づいた事と、もともとの構想で新たな活動を開始するふんぎりが付き、一応活動しています。

本来の活動は、地域の活性化と、地域のランドマーク、都心のふるさとづくりという活動をしていましたが、そこへ加えること、高齢者の事を融合させ人生のオアシスづくりができればと考えています。

活動状況

当初は、神戸市中央区の東半分、葺合地域の、主立った10の市場と商店街の組織、葺合市場商店街連絡協議会で、この地域の活性化と、ランドマークづくりとして、「民話の里『ふきあい』」に取り組んでいます。この組織では、市場や商店街にちなんだ民話を、冊子や紙芝居にして紹介したり、スタンプラリーを実施したり、地域の仮装行列に参加したり、マンホールにキャラクターを描いたり、市バスに掲載したりと、毎年毎年、いろいろ取り組んできました。この活動の年数を経ることで、ふるさとづくりが完成されていく様に思います。

今では、各民話のキャラクターのゆかりの地に石像も完成しています。

しかし、こんな、ふるさとづくりも、都心ゆえに良いものがあるように思います。今度この事業をする中で感じたのは、都心といっても、そこで産まれ育って、巣立って行く人、その地に落ち着く人、落ち着いた人も、外来者で根付いた人も、高齢者となり、そしていづれは・・・、それなら、・・・の前に、そこは人生のオアシスであるべき。神戸市内の市場や商店街は、来場者が高齢化していると言うのが悩みでもあるが、高齢者は、これから数年、どんどん増えるばかりの筈、有り難い事です、どんどん増えるのだから、歓迎しましょう。自分もその一員となるまでは、お世話をしましょう、と考えて、私自身は、一昨年に訪問介護事業所を開設しました。又、ふるさとづくりの組織では、地域の方々がお世話しておられる、高齢者の給食サービスへの応援をする形で、有志の店舗で、お弁当の供給事業に取り組んでいます。

活動を進めていく上での課題

色んな活動も、想像したり計画したりの時と、活動を始めた時では、全てにおいて大きく違うものです。

活動している間に、最初考えもしていなかった事が浮かんだり、反対に、本当にこの活動が、今の世間に必要なのだろうかと疑問に思ったり。

活動する時には、それなりの信念を持った上での活動をしなければならない、一度誰かが挫折すれば、別人が似たことは出来難くなる。しかし、どんな活動も少しの事で、成功と挫折の分岐点に立つ、特に、我々事業者集団は、自店、自組織の活動は現役で活動中で、更に、別の活動をすると言う事になると、何処かで本来の活動と接点を見つけて活動する事が一番の課題と思う。

活動して良かった点

どんな活動も、無駄な活動は無いかも知れない、活動する中に入ると、自分の持ち合わせいない部分と遭遇して、新しい事項に気が付く、ビジョン委員に入らせて頂いて最初の2年間は痛切に感じた。そして次の2年間は、ビジョン委員会の流れには乗れなかったかも知れないが、趣旨は理解できているつもりで活動が、それなりに自信を持った活動、積極的な活動ができた様にも思う。

今後の計画

現在、葺合市場商店街連絡協議会の事業として取り組んでいる、都心のふるさとづくり「民話の里『ふきあい』」と、今ではマイビジネスと、ボランティアの都心の人生のオアシスづくりを地域に認めて頂けるレベルに推進していきたい。そうすることが、人の為である筈、そして自分のためと考えている。

活性化

松枝 謙介

活動の概要

特に記入すべき活動はしなかった。

活性化の難しさを実感した。(議論と実践、総論と各論の整合性がむづかしい)

活動状況

個人的に興味あるものに参加した。

ボランティアの会議に出席したり、PR紙の配布。

子供たち(近所の)に声かけ運動

知り合いの高齢者のお宅へ訪問し一寸した買い物をしてあげたり、医院への訪問カードを入れてあげたり。

活動を進めていく上での課題

とじこもりの老人が多くなって近所づき会いをしない人が多くなった気がする。

子供たちにうっかり声をかけ、変な人と思われぬかと思われぬかと心配。

活動は人がしてくれるものと思っている人が多いので、嫌になることがある。

活動して良かった点

良かったというより自分自身の問題であると思う。老人が話しをただけで喜ぶ人もいる。

いろんな人がいることが実感した。

今後の計画

自分も高齢者になり、フランクに人に助けを受けられるような気持になりたいが(かたくなにならないこと)、健康の許すかぎりいろんな所へ出て行き興味を失わないようにしたい。

その他報告すべき事項・提案

最近学校での事件が起こったが、これに関連して、街の治安性と含めて、市民パトロールのボランティアを結成してはどうか(個人ではなかなか立ち上げにくい面である。警官も少なくなり、街で見かけなくなり犯罪の多発に対応出来、それを防ぐ方法など将来実施することが必要)消防署のサポーターとして消防団があるように。

留学生と地域コミュニティのコーディネート活動

田中 カズ子

活動の概要

国際都市「兵庫」の顔は多文化共生共育にある。しかし、グローバルネットワークの構築は乏しい。国際化に伴い、語学教育や多文化理解へのニーズが高まっている。

その声を受けて、留学生を講師として学校や地域コミュニティに派遣する取り組みを 2002 年に留学生 300 人を対象にしたアンケート調査を行ってきた。

昨年の活動で提供した国際理解教育の場では、子どもたちだけのふれ合いに留まらず、神戸市シルバーカレッジや地域の国際理解講座（生涯学習）において大きな反響を得た。昨年度の活動を継続して、子どもたちにも教えながら、シニア層の国際理解に対する関心の拡がりとともに、行政機関・地域と連携した企画の成果を得る。

活動状況

地域：兵庫県内 小学校区・中学校区・その他の地域

1・在日の留学生が母国の文化、習慣、くらしの様子などを地域や教育現場において子どもたちに語る機会を提供した。

2・結果、子どもたちの国際理解を深める場づくりとなった。

3・本活動が提供した場づくりは、子どもたちだけへの情報・発信にとどまらず、今期は生涯学習の場において活動の拡がりを経験した。

4・協働する機関、団体等についても広範囲な交流となった。

5・下記の活動の効果を継続し、「協働」によるプログラムを創り国際理解教育地域交流活動を行った。「世界は今 留学生の国々からのメッセージ」(別紙添付)

活動の経過：

4月～6月 留学生研修・調査研究・学習会議（連携機関・地域との打合せ会議）

7月～1月 各学校の授業実施・国際理解教育地域交流講座実施

2月～3月 「留学生による国際教育地域コミュニティづくり」の企画立案・継続

4月～ 平成17年度の活動プログラムの実施

活動を進めていく上での課題

行政との協働・連携を強くお願いしたい。

平成16年度の協働の相手方

兵庫県国際交流局国際政策課 兵庫県教育委員会（公立小・中学校）

神戸大学国際・研究協力部 日本学生支援機構神戸サテライト

神戸地区中国人留学生学友会 社団法人兵庫県子ども会連合会

財団法人こうべ市民福祉振興協会シルバーカレッジ

西宮市生涯学習大学「宮水学園」国際文化コース

三田市生涯学習大学院国際文化コース

生活協同組合コープこうべコープ活動サポートセンター住吉「地域ねっとわーく連絡会留学生支援サークル」

独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター（JICA兵庫）

なぎさふれあいのまちづくり協議会

活動して良かった点

本国際理解教育啓発授業は、地域の子どもたちや一般市民が諸国の留学生たちの多彩な文化や歴史を学びながら、世界は今、どのように動いているか？を知り考える国際協力の活動ともなってきた。

2004年度「カリキュラムの内容」90分授業（添付資料）の国際理解教育地域交流講座「世界は今留学生の国々からのメッセージ」は「震災10年に神戸から留学生の母国へ交流の友好親善を情報発信する」役割を担った。

特記事例：ハット神戸地域住民との国際交流として創めた生涯学習「国際文化コース」

は、“地域に居ながら各国のことを日本語で聞けておもしろくて大変勉強になりました”とハット神戸地域住民の受講生から好評を得た。引き続き2005年度（第2期生）今度は1年間の「国際文化コース」の募集を開始した。

今後、この輪を広げるために他の地域への呼びかけを行う。

御礼：先導事例を担っていただいた「なぎさふれあいのまちづくり協議会」の阪本委員長をはじめ役員のみなさん、広報部会、場所を提供していただいたなぎさ地域福祉センター、受講生のみなさんのグローバルな国際感覚や地域社会のコミュニケーション、国際協力に篤く感謝申し上げます。

今後の計画

- (1) 小・中・高等学校の国際理解教育授業
- (2) 大学のセミナーへの参加授業
- (3) 私立の高等学校（55校）へ国際理解教育授業の普及
- (4) 公・私立小学校の教員ワークショップの開催



生涯学習と国際交流について（シルバーカレッジ国際交流協力コース）

南原 民子

活動の概要

神戸地域ビジョン委員に任命されて、あっという間に2年すぎてしまいました。何もわからないまま、お引き受けして、だいたい1ヶ月に1度は出席してきました。“神戸らしいグローバルな魅力づくり”のグループに参加し、田中カズ子さんを中心にいろいろイベントの企画にもたずさわり、他のグループのイベントにも地域の有力者やシルバーカレッジの友人をお誘いして参加しました。やっと神戸地域ビジョン委員なるものが解ってきたつもりです。

私は大きい会議では何もよう発言しませんし、これと云って何もしていません。

この2年間、イベント参加をシルバーカレッジの友人・知人に呼びかけ、又、地域の各団体で活躍しておられる方にゆめネットを配布したり、4~5人の方に出席、参加していただきました。

この度、次にビジョン委員を引き受けて下さる方も見付かりホッとしています。

活動状況

- ・ 広陵校区婦人会
かるた部として、年3回ほど、広陵小学校児童と百人一首をして遊んでいる。
“かるた大会” ティータイムあり
- ・ シルバーカレッジ広陵同窓会
10期生20名で「やまのまち会」なるものを結成し、昨年10月頃、森林植物園への遊歩道の整備、清掃を行った。
- ・ シルバーカレッジ国際交流協力コースの友人達に呼びかけ、ビジョン委員企画の色々なイベントに参加した。
- ・ シルバーカレッジ広陵同窓会、ふれあい町づくり協議会が合同で広陵小学校児童に“むかしあそび”として、百人一首、お手玉、こま、けん玉など一緒にあそんで楽しんだ。
- ・ 田中カズ子さんの「国際教育文化交流協会」の主催する世界の若者会議にも友人と3人で参加した。

活動を進めていく上での課題

- ・ 今まで勉強した事をもっと地域のために役立つ様活かしてゆきたいが、女性1人では無理で、私にはそんな力がない。地域内でビジョン委員のグループ作りが必要だと思う。
- ・ 留学生は、主に神戸大学の優秀な学生さんしか応援してないが、もっと広く、他の大学生ともかかわるべきだと感じた。

活動して良かった点

シルバーカレッジの優秀な人材を地域ビジョンの取組みに目を向けてもらい、次の担い手に導かせてもらえた事。



異文化交流とコープこうべ組合員活動

長町 靖子

活動の概要

- ビジョン委員会のサークルで実践した活動を従来から所属している地域の活動の中に結びつけ、生かす事。(生協の組合員活動)
- 「神戸らしいグローバルな魅力づくり」を実践する為「国際文化交流協会」の活動に参加、協力をして交流の進め方を学ぶ。
- その活動が組合員活動の中で如何に取り組めるか考え、地域外国人や留学生達との交流を広げる。

活動状況

- ビジョン委員会の見学、学習会(留学生のための酒づくり体感ツアー、柳田国男の故郷の準備から)参加
- 国際交流協会の「世界若者会議2004」のスタッフとして参加、留学生達の日本での期待や不満など、集会や交流パーティーなどで接点をもち楽しんだ。
- 私の所属しているコープこうべ組合員活動の中に異文化交流を進めると言う課題があり、地域外国人、留学生との交流を進める一つとして、「留学生国際交流」サークルを立ち上げ、コープに登録してフェスティバルへの参加やバザー、アルバイトの紹介など始めた。
今後はサークルの中で語学や生活文化の交流がもてるチャンスが出来るといいと思っている。

活動を進めていく上での課題

NPO国際文化交流協会と云う団体があったので組合員活動の中に入り易かったのですが、留学生達と支援者との思いが一致していない事がある様に感じている。

活動して良かった点

- 個人的には少し世間が広がった様に思う。
- コープでは、ユニセフ本部(兵庫県支部)が出来たり、異文化受け入れを進める事に目を向けてきていたので、グッドタイミングであったと思う。

今後の計画

- 誰でも気軽な交流が出来るように、色々なサークルの中に語学や生活文化の交流会を持てる様にする為、先はネットワーク連絡会等で話しを進めてみる。

その他報告すべき事項・提案

県民行動プログラムの中に、今頃日々物騒になって来ていて県民の関心事である、防災、防犯の課題を取り入れてほしいと思います。

生ゴミリサイクルと地域環境改善事業

藤田 宗英

活動の概要

私達が活動している神戸市青少年育成協議会玉津第一支部は、地区内に居住する青少年の健全育成を目的として環境の改善に取り組んでいるが、のどかな田園風景から、急速な宅地化が進み、近年人口が急増している。そのため、地域住民の人間関係が希薄となり、協働力が低下すると共に、自治会等諸団体の活動レベルの低下が見られる。また、人口急増によりゴミが増加し、ゴミ出しルールが守られないことによる環境悪化とゴミのポイ捨てによる街の美観が損なわれている。こうした街の景観、美化レベルの低下が、少なからず青少年の成長に影響を与えているのではないかと懸念される。

そこで、昨年11月から始まったゴミの分別収集をきっちりやると共に、少しでもゴミを減らすための更なるリサイクル手段として、生ゴミをリサイクルして堆肥を作り、それを使った地域での花づくりを行うこととした。生ゴミ堆肥づくりには、従来コンポストを使用してきたが、住宅地では、ニオイと害虫の発生により、なかなか普及していないのが現状である。そこで、住宅地でも使える「生ゴミ堆肥化装置」の採用により、子供達にも参画してもらって生ゴミから堆肥を作り、それを使って地域でストリートガーデニングによる緑化を進め、住環境の改善と街並み景観の向上、および、ゴミ減量化による環境負荷低減と地球温暖化防止活動に取り組むこととした。子供たちには環境教育も兼ねて積極的に参画してもらい、青少協玉津第一支部を中心として、玉津第一小学校、玉津中学校、長畑自治会、その他宮下、小山、出合、持子各地区の住民の協力を得て実施した。

活動状況

青少協玉津第一支部が中心となって、子供たちにゴミ問題の現状とリサイクルの大切さ、ゴミの減量化とゴミ出しルールの徹底などについて講習会を行い、ひとりひとりが、できることから行動することの重要性について理解を深めてもらうようにした。また、自治会に呼びかけて、分別収集の重要性とゴミ減量化、リサイクルに関する講習会を行い、環境問題に関する意識づけを行った。

生ゴミのリサイクルについては、実際に「生ゴミ堆肥化装置」を使ってリサイクル堆肥づくりを子供と住民に体験してもらった。装置は住宅地でも使えるようなコンパクトタイプで、ニオイが全くなく、また害虫の発生がない。また電気などを一切使用せず、自然の発酵力を利用して生ゴミを堆肥に変えるので、環境負荷低減と地球温暖化防止に貢献できるスグレ物であり、実際にできた堆肥を土に返してリサイクル、花づくりに活用した。

リサイクル堆肥を土に混ぜて花を植え、街路にプランターを設置するストリートガーデニングを行った。今年度は、リサイクル堆肥を使った場合と、マグアンプを使用した場合の花の生育状況を比較してみたところ、リサイクル堆肥を使用した花苗は、非常に株張りも良く、花の寿命も長かった。リサイクル堆肥を使った地域緑化により、街が明るくなり、子供を含めた地域住民の心にゆとりとうるおいを与えることができ、健全育成にも貢献できているのではないかと感じた。

今後も生ゴミリサイクル堆肥づくりを行って地域緑化を進め、明るい街づくりに資すると共にゴミの減量化による環境改善と地球温暖化防止活動を展開して行きたい。

活動を進めていく上での課題

- ・地域住民の環境問題に関する関心度合が、まだまだ低い。
- ・生ゴミ取扱いについて、注意を払っている人が殆どいない。
- ・分別収集が始まったばかりであり、ゴミの分別とリサイクルの重要性を認識している人が少ない。住民の意識を高めていく必要がある。

- ・次代を担う子供たちに、もっと環境教育をしていかなければならない。

活動して良かった点

- ・子供たちや地域の大人、学校と協働でゴミ減量化やリサイクルについて話し合うことにより、環境問題への関心が高まった。また、リサイクルできる物を捨てる人への注意、監視の目が行き届き、ゴミ出しのマナーが良くなってきた。
- ・生ゴミリサイクルを行うことにより、ゴミ減量化に貢献できた。また、生ゴミリサイクル堆肥づくりが少しずつ広がり、住民のリサイクルに対する意識が高まってきた。
- ・生ゴミリサイクル堆肥を使って、子供たちや地域の大人、青少協、自治会、学校が協働して地域緑化に努めたことで、コミュニティが広がり、地域の環境改善に貢献できた。
- ・ゴミ問題と地域緑化について、協働で取り組んだことにより、子供を取り巻く各種問題について話し合う場ができ、地域諸団体との連携がよくなった。

今後の計画

今年度は初めての取組みとして、試験的に生ゴミリサイクル堆肥づくりと、ストリートガーデニングを子供たちと地域の大人、自治会、青少協がいっしょになって実施したものであるが、次年度も、基本的には継続して事業を進め、効果を確認したい。また、ゴミの減量化と地球温暖化防止の観点から、この活動を周辺の他自治会などにも呼びかけて広げていきたいと考えている。そのためには、今年度得られた成果と、取組みの反省を行い、リサイクルとゴミの減量化について、PRしていきたいと考えている。ひとりでも多くの人に理解してもらい、行動してもらえるよう、地道な活動を続けていかなければならない。また、次代を担う子供たちにも、生ゴミリサイクル堆肥によって環境負荷軽減につながっていくことを教え、実践してもらえるよう、私達大人がお手本を示していきたいと考えている。

その他報告すべき事項・提案

- ・生ゴミリサイクルを推進して環境負荷を軽減するために、県としても、もっとPRしてほしい。
- ・また、ひとりでも多くの人がこの取組みをしてもらえるよう、教育のための講座を開講したりして、ゴミ減量化に関心を持ってもらうような取組みを希望する。
- ・特定の店で購入した指定のコンポストにだけ助成するのではなく、効果のある機材には、それなりに助成を行い、ゴミ焼却に必要な油代を減らす努力をして欲しい。
- ・県民みんなが生ゴミリサイクルに取り組めるようなバックアップをお願いしたい。



環境（500人委員会板宿会）

倉島 陽子

活動の概要

板宿のショッピングセンターの花壇、板宿小学校から滝川高校のコミュニティ道路の花壇に花を植え、手入れをし、通りがかった人たちに喜ばれ、楽しく会話をし、美しい楽しい街になるように花壇の管理をしています。

花と緑を大切にすることを多くの人に持ってもらう為に、自然観察会や講義、実技等公開講座を行っています。

活動を進めていく上での課題

実際活動を進めていくのには資金確保が欠かせません。持続的に必要。（花、土、肥料、謝金等）

活動して良かった点

街がきれいになった。講座に参加された方達から次回も参加したいと喜ばれた。

今後の計画

今までの活動を続けていく。

その他報告すべき事項・提案

多くの家庭が生ごみ堆肥化を実際に行う必要がある。



循環型社会の構築（生ゴミ堆肥化）

松岡 博文

活動の概要

循環型社会の構築を主として、次のような諸活動を行った。

- ・ストリートガーデン活動：藤田宗英、井上タイ子氏らと共に
- ・「農都共生ネット神戸」に参加し、本位田氏田地でアイガモ農法など、木月市民農園。
- ・ポートアイランド「MSガーデン」の園芸活動に参加：森山夫妻の主導、空き地の公園化など。
- ・「神戸花と緑のネット」の活動に参加：各種フェスティバル、緑のマップ作り。
- ・「尼崎森づくり協議会」の活動に参加：市民団体、産業団体、行政、合同活動。
- ・家庭ゴミ堆肥化実験：グリーンエコ装置の改善、モニター活動、普及化へ。
- ・神戸観光ガイドボランティア：森山芳子氏主導。NPO組織へ。神戸へ内外客を呼び込む。
- ・神戸留学生との交流：夢会議に参加し、神戸大留学生のバンデットさんと知り合う。8月にタイのバンコクで再会。交流を進める。
- ・家庭での省エネ：温暖化防止運動の一環として、温暖化防止委員の指導で。
- ・竹炭へのアプローチ：ビジネスライブの会、竹くらぶ活動、竹林整備、竹炭活用、田園生活へと。

活動状況

同士、共鳴者と手を組むことにより実践活動へと移っている。私には、もはや壮年の活力はない。それを自覚の上、自分の役割を果たしたいとやって来た。長年の経験の上に、新しい情報と人脈の提供である。今、次のような組織に身を置いている。情報、人脈のソースである。

- ・ビジネスライブの会：関西一円を舞台に活躍する企業OBのコンサル集団。元気な定年退職者は、体力、気力も充溢している。ここに来れば常にリフレッシュ出来る。（兵庫部会、技術部会、NPO部会）
- ・環境カウンセラー会ひょうご：環境省登録の環境カウンセラーの兵庫県内者の会。行事、講習会、研修会など、随時行う。
- ・神戸観光ガイドボランティア：神戸市、商工会議所などと連携。内外団体客の予約増えている。

活動を進めていく上での課題

世の中の動きを見極めることである。「大きく捉えて小さく行動する」そのためにも自分たちの位置付けが大切である。国際的な動きは社会人としての常識であるから、絶えず注視することは勿論であるが。

具体的には地域社会の活動として

行政の動き、県・市の動き、施策、その担当部署に最も身近には県民局各部署の動き。

法規制の動き：国家的法律から、市町村条例まで、次々に変わっていく、目が離せない。

ネットワークの同志を見つけること：ビジョン委員の中からも選り分けてゆく。

NPO法人として活動している組織の実態を知る：組織活動のモデル。参考・目標として。

活動して良かった点

1. 健康によい...適度な労働（頭と体）は70を越した者によい健康法である。
2. 達成感、満足感...精神衛生によい。社会、人のためになっているのなら。
3. よい人達と仲良くなれること...気の合う人に出会える喜び

今後の計画

ビジョン委員会は、3月末で任期終了であるが、これからも機会があれば会合に参加して仲良く付き合っていきたい。

その他報告すべき事項・提案

事務局の役割：市民活動の泣き所は、事務局である。負担が大きいのである。それに誰にもやれるものではない。適性がある。この度、県民局が事務局を務められた意義は大きい。これからも出来るだけの支援を続けて頂きたい。官から民への掛け声であるが、移行期である今、期待は大きい。

情報センター的機関の整備：情報・資料を迅速・的確に引き出せる機関を、誰もが知りたがっている。

IT化の時代でもある。一般人に分かりやすく、情報・資料の引き出し方を提示頂ければ幸いである。

震災空き地の活用（真野地区まちづくり推進会）

村瀬 敏明

活動の概要

2年前のビジョン委員募集時は、まちづくり推進会の代表であったので、空地に花、青少年の健全育成などと、ビジョン委員会から学び、地域に生かそうと考えて応募し、ビジョン委として、各会合に参加し、何かえるものを探したがいいものがなかった。その反面、代表改選にやぶれ野に下り、地域活動にも情熱を失う。

したがって、これという活動はなし。ただ、添付写真のように1ヶ所、空地を花園にしたことだけが嬉しい成果である。

活動状況

東尻池町4丁目にあった、市所有地であった震災によって倒壊した空き地を、自治会長の努力で花園に替えた。私は一寸助言しただけである。（まちづくり推進会の市へのアクセスもあったかもしれないが）

活動を進めていく上での課題

真野地域から2名ビジョン委員になっている。2人の協力が必要であるが私はできなかった。代表を争った仲だから。このように、2人いるときはこの2人の関係の如何によって地域への波及効果がよくなったり、反対に悪くなることがあると考える。選定するとき考慮すべき点であると思う。

活動して良かった点

地域での活動はなかったが、ビジョン委員として、交流できたことがよかったと思う。

今後の計画

地域組織を離れた今、この指とまれ方式で有志をえて、地域にとらわれないオープンな地域活動、特に福祉ボランティア活動に力を入れたいと考えている。

その他報告すべき事項・提案

循環型社会、高齢者のお世話などの部会に参加したが、出席者が少ない。更に発言が独善的である。会合の目的不明、会議の運営不手際、えるものがなかった。“提案する”そのような高次なことは我々の段階ではむづかしい。それをうまくまとめる人が座長として、いてもらったらもう少しよい会合ができたのではなかろうか。



子育ての支援（サポートステーション灘・つどいの家）

丸谷 肇子

活動の概要

毎月第2,4金曜日 午前中

月2回、サポートステーション灘・つどいの家にて、季節に応じたプログラムを考えて、こそだて中のお母さん・子ども達と交流をしています。

活動状況

毎回区役所（保健部）や地域の掲示板を見られた親子が「つどい」、こそだてについての情報交換の場となっている。私達スタッフは、季節に応じたプログラムづくりを参加者と共に考え企画し、楽しいひとときを過しています。

活動を進めていく上での課題

必要経費の捻出

活動して良かった点

こそだて中のお母さん達同志が出会いお友だちになっている。

今後の計画

プログラムを充実させたいと考えている。

その他報告すべき事項・提案

高齢者達と一年に1回交流を実施しているが、もっと回数を増やしていきたい。
昼食を用意出来れば、どんなにお母さん達が助かるのではと考える。



保育所の5歳児と遊ぼう（北区老人クラブ連合会）

坊ヶ内 崇夫

活動の概要

平成16年10月28日（木）9：45～11：20

北区民センター競技場

公私立保育所（10所）5歳児254人、老人クラブ会員12クラブ109人

プログラム：はじめのつどい

全身体操「がんばれパチパチマン」

パラバルーン遊び

オセロゲーム

じゃんけん汽車

フォークダンス「えがおでこんにちは」

大玉ころがし

うた「しあわせなら手をたたこう」

プレゼント交換

お礼のことは

活動状況

全員集合して元気にあいさつ、保育所、老人クラブ毎の紹介、「がんばれパチパチマン」の全身体操のあと、子どもと会員混成のグループづくりをして、遊びに入った。

子どもと大人とにわかれて、パラバルーンをふくらませたり、すぼめたりして遊ぶバルーン遊びでは、バルーンがうまくふくらまず、子どもたちから「がんばれ」と声援がとんだ。また手をつないで行うゲームでは、手を引いているのか手を引かれているのかわからぬ珍プレーも出た。

始めははにかんでひかえめであった子ども、ハシャギまわって特異な行動をしていた子ども、プログラムが進むにつれてうちとけて、短い時間（2時間半）の交流であったけれども、会場は笑顔と歓声に包まれたなごやかで楽しい時間がもてたと思う。最後の「お礼のことは」では、そっと涙ぐむ会員もあって、われわれ会員にとっても、心のなごむ一刻であった。

活動を進めていく上での課題

この活動は、保育所の子どもにとっても、老人会会員にとっても、有意義な活動であったと自負しており、ますます拡大したいと思っている。しかし、会場設営、演技準備、子どもの引率など保育所の負担が大きい。従ってこの活動は、年1回にとどめ、各保育所ごとに、地域の老人会と、平常の保育を通して交流することを考えていきたい。

活動して良かった点

核家族化した家庭に育つ保育所の子どもにとって、高齢者とふれあうことは良かったと思う。われわれ子育ての終了した会員にとっても懐かしい、心の癒される一刻であった。

今後の計画

この活動は今後も継続していきたい。並行して各保育所と地域の老人会が交流するよう計画していきたい。

子育ての支援（ぼんぼん）

山崎 典子

活動の概要

- ・ぼんぼん独自の活動
子育てひろば
サークル依頼を受けての親子遊び
イベントに参加（リズム遊び、大型絵本など）
- ・須磨保健所の方々に15年春子育てフェスタ（仮名）をしようと提案、16年秋開催できた。
17年度も続けていく方向である。

活動状況

- ・ぼんぼんの活動としては、ひろばの方へは、毎月10名前後の親子さんが参加。（0歳児さんが多いです）
- ・障害児への身辺介助や見守りも増えました。
- ・子育てすまっ子フェスタ
2年にわたり計画。実施にいたるまで、保健所、主任児童委員さん、まちづくりの地域の方々とたくさんの方々と進めてきました。16年秋に実施。17年度もぜひ続けていきたい方向です。

活動を進めていく上での課題

神戸地域ビジョン委員として、子育て支援グループに入り、自分たちの活動だけでなく、地域にかえていこうという思いで話を持ちかけました。（保健所の集まりに参加、提案）地域での活動は、場所、スタッフの集まりなどによりましたが、思いや願いは一緒だったので、よかったです。

活動して良かった点

たくさんの方々とふれあうことができました。（親子さん）地域の方々とも話し合う場ができ、イベントだけでなく（普段からお互いの活動がわかってきているため）小さな行事などにも参加でき、私自身とても勉強になりました。

今後の計画

17年度も続けていきたいと思います。あと、誰でも自由に参加できる「ひろば」について場所、内容、日時など地域の方々とも話し合いを進めていきたいと考えています。

その他報告すべき事項・提案

神戸地域ビジョン委員会に入り、たくさんの方々の話が聞け、今「私たちのできること」ということについて、しっかり考えることができました。ありがとうございます。地域の方では少しずつですが、活動ではじめています。神戸地域ビジョン委員会の話し合いや活動には、参加できない日が多かったので反省しています。

子育ての支援（輝支援センター神戸）

末澤 喜美子

活動の概要

生後4ヶ月から未就学児童までの一時預かり保育

- ・核家族や、両親が保育補助を必要とするとき、安価で安心して預ける施設の提供（買い物、お稽古、通院、一寸ゆとりの欲しいとき等）
- ・パート、アルバイト等、保育所に預ける条件が満たされないお子さんの一時預かり

預かり内容

- ・月曜日から土曜日まで（日曜日休み）
- ・午前8時から午後7時まで
午前8時から午後5時・・・1時間600円
午後5時から午後7時・・・1時間800円
ウィークリー1週間10,000円（連続6日間利用、午前9時から午後5時まで）

活動状況

- ・登録者数360名（平成16年12月末）
- ・大半は予約利用が多いが、「三宮に出かけてきたので」と急な飛び込み利用もある
- ・遠方より、インターネットで知ったとの利用者も増えている
- ・神戸市在住の外国人のお子さん預かりが多いのは、国際都市神戸の特長
- ・曜日、天候により預かり人数がかたよる
- ・パート、アルバイト等の不定期就労時間の利用
- ・保育所入所まちの利用

活動を進めていく上での課題

安定した利用人数の確保の難しさ

家賃や人件費等に、公的支援・助成金が必要

活動して良かった点

- ・どんな時に預かりを必要としているかがわかる
- ・その時々で、お子さんの家庭環境が違ってても、スタッフが子育て経験者なので、柔軟なきめ細かな対応ができた
- ・相談者が近くに居ないお母さんの良き相談相手となれた
- ・お子さんからは、おばあちゃん感覚での触れ合いで、温もりのある保育がなされた
- ・外国人のお子さんの食生活と、日本のお子さんとの食生活の違いがわかる
（小さい時からの食生活の違いが、将来の体型にもかかわっているのだろうか）

Artist による子どもの居場所づくり（放課後支援事業）

橋 裕子

活動の概要

- ・ 絵画教室の主催 六甲、六甲アイランド、夙川、自宅アトリエ等（幼児～高校生まで）
- ・ 障害児自立支援 兵庫県立生活創造センター（クリスタルタワー）にて、毎週1回制作と音楽療法。
- ・ 指導者講習会開催 「おえかきの指導のカベをなくそう」をテーマに全国の幼稚園、保育所等で...
- ・ 夏休み造形教室 プロアーティストとの出会いの場を原田の森ギャラリーにて企画・開催。
- ・ 公募展出品 全日本学生美術展、14回連続団体賞受賞。（全日本美術会賞）
- ・ エイブルアート・ジャパン会員 障害者の芸術活動を研究、参加。
- ・ 個性とハートの祭典実行委員 市・中央区社協の障害者文化祭に参加。ハートでアート協力。
- ・ 子ども居場所づくり Art プロジェクト 実行と提案。特に一般的にむずかしい子の子育て
- ・ 夢 子どもがつくる人・まち・こころ 県民局、地域ビジョンと協参で、絵画展をしかけに居場所づくり。
- ・ その他 Art と子どもの力で街を彩り、街ゆく人々の心も動かす企画を実行。

活動状況

個人でスタートした想いが、長い年月の間に仲間、アートティーチャー、ボランティアスタッフ、学校と広がり、今大学生がスタッフに加わり、大きな人の輪となって、こどもの心育てを目的にかかわる1人1人自分自身の居場所づくりにもつながり、幸せを共有できるほどになりました。

活動を進めていく上での課題

現在期待されている障害をもつ子ども達の放課後支援事業の会場にロッカーがなく、毎回画材や途中の作品をかかえて来たり、限られた材料でしか指導が出来ず、「今あれがあったら」と残念に思う事が多いので、クリスタルタワーに画用紙が垂直に入るくらいのロッカーがあれば...自分達だけのハードがあれば...等と考えています。

活動して良かった点

今、子ども達の間で多くの問題がおきています。社会や教育現場、家族の間でのひずみが、未来をになう子供達に事件や迷い、心をくもらせてゆきます。その中で、アートはたくさんの切り口、しかけづくりを可能にし、子供達にかたりかける事が出来る、大きな手段だと実感する事が多く、良い結果を出しています。

今後の計画

居場所づくり＝しかけづくり＝こころづくりをコンセプトに、大学や企業、行政とつながりながら、アートセンターを立ち上げ、福祉事業として様々な展開をこころみてゆく予定。
4月2日、県民アートギャラリーでのフォーラムが第1回の集会となる予定です。

その他報告すべき事項・提案

学校でもない保育所でもない、教育でもない福祉でもない、しかし三位一体となってこどもを育てていく事の大切さ、専門家による放課後支援事業に、新しい行政の手をさしのべていただきたい。

青少年育成（学園都市 寺子屋クラブ）

山中 修

活動の概要

市西区青少年育成協議会の部会の一つとして、親子参加型のイベントとして、親子体験バスツアー、サツマイモ作りに挑戦（苗植え付け、収穫）、クリスマス・お正月飾りづくり教室、クリスマスコンサート、星をみる会、子ども科学実験教室などを企画・実施している。

市青少協活動としてはその主体が大人への啓発だけになっていたこと、あるいは、育成委員という認定者だけに限定された活動になっていたことなどから、寺子屋クラブとして一般の人たちも参加出来て、地域の大人と子どもと一緒に楽しむことができることを提案している。

現在実施している活動は、メンバーから提案があって実施したもので、毎年継続している。他にも「紙飛行機教室」も1年ほど開催したが、企画者の個人的な都合でお休みしている。

活動状況

6月：サツマイモ作りに挑戦（苗の植え付け）

各自で芋の苗を植え付けます。

7月：親子体験バスツアー（今年度は3月に開催）

昨年度はうどん打ち、今年度は藍染めにチャレンジします。

8月：学園都市夏祭りイベントに参加、学園子ども祭りに協力
活動の発表も兼ねて参加。子ども祭りはサポート役として

10月：サツマイモ作りに挑戦（収穫・焼き芋大会）、星をみる会
大きなサツマイモに子どもたちも仰天。夜は天を仰いでいます。

11月：冬のコンサート（キャンパススクエアと共催）

幼稚園の子どもたちの出演で会場は酸欠状態寸前。クラシック音楽も楽しめます。

12月：クリスマス・お正月飾りづくり教室

この冬はさぼりましたが、来年に向けて準備中

3月：星をみる会

夜6時半に公園に集まって星を観察します。まるで星たちが地球の周りを回っているようです。

毎月第3土曜日：子ども科学実験教室（ただし、8月を除く）

光はどんな性質かな？加圧グローブで犯人を捜そう。フクロウのおなかの中にはどんなものが入っているのだろう。モータを作ってみよう等々

開催場所は学園都市キャンパススクエア、西神南セリオ、学園都市ユニティーの3箇所で開催。
チラシは各3箇所と西神中央プレンティアー、西区民センターに設置。

各定例活動のために2～3ヶ月以上前から準備。

ホームページは下記

寺子屋クラブ：<http://www.eonet.ne.jp/~yama-land/sub2.html>

子ども科学実験教室：<http://www.eonet.ne.jp/~yama-land/sub3.html>

活動を進めていく上での課題

毎月2回（第1土曜午後、第3水曜夜）の会議を井戸端会議としていたが、いつも使っていた洋風居酒屋がレンタルビデオ屋に替わって、無料で使える場所が無くなり、会合が難しくなっている。

当初、大人がたむろ出来るような場所を探したが、意外に自由に集まれる場所がなく、「子どもたちの居場所」づくりの必要性についても実感していた。

最近では、ようやく児童館を使わせてもらうことが出来るようになったが、昼間は使えず、大人や子どもが集まりやすい会議場所を探している。

また、児童館活動が市事業ではなくなるとのことで、児童館との協力関係がなくなる可能性もある。

そして、最近、子どもたちの参加が少なくなってきたことで、子どもたちへの呼びかけに新たな方法を取り入れる必要性を感じている。地域に寺子屋クラブ専用の掲示板を設ける方法など。

活動して良かった点

青少協は地域団体の代表者で構成する団体のため、イベントを企画しても、主体になって動いてもらえる人が少ないため、こういう活動をするにはあまり適していなかったが、寺子屋クラブを設けたことで、この活動が地域にも認知されるようになり、青少協活動自体にも参加してもらえる人がふえてきたようにも感じる。

また、それぞれの活動に参加された方との会話は、地域の情報を把握する上でも重要な機会になっている。

今後の計画

現在は大人を主体にしたメンバーで活動しているが、大学生、高校生、中学生、小学生、あるいは社会人の若者たちが参加して、子どもたちが自主的な活動ができるグループ、あるいは場が出来れば面白いのではないかと、すでに青少協の子どもフォーラム（毎年2月第1土曜日開催）に参加してもらった中学生、高校生、大学生で3月23日に初めての会議を開催することを予定している。とりあえず、8月に開催する「学園子ども祭り」（児童館と共催）の企画検討を目的にし、雑談会、あるいはお菓子パーティーの形も可と考え、子どもたちが何かを創造してくれることを期待している。

ただ、子どもたちのグループづくりをする上で、定例的な会議をする場所を学校、あるいは地域で確保出来るだろうか。学校内では自由な雰囲気も難しいのではないかと。大学の食堂などを使うこともあり得るとして、学校側が了解するだろうか。等も課題の一つになるだろう。

その他報告すべき事項・提案

「寺子屋クラブ」、あるいは「井戸端会議」という発想は地域にはなかったため、当初は西区青少協事務局（西区役所）からクレームが来たが、現在は何とか地域に受け入れられている。

しかし、学園都市が西町、東町と分かれていて、連合自治会、ふれあいのまちづくり協議会も別々にあるため、それらのグループが開催する大きなイベントとの兼ね合いが今後、課題になってくると思われる。

青少年（子育て実践を含む）活動

小西 義夫

活動の概要

1. 有野小学校現地において、年度によって2年生又3年生を対象（約120名程度）に保護者も一緒に新興地もあるため 町内の歴史話 竹馬作り 竹とんぼ作りの指導 秋には収穫祭として児童と餅つき大会等を老人会リーダーを入れて実施。
2. 有野川整備により河川公園を作ってもらったので、ここで親子（140名程度）と釣り大会を楽しみ、昼食にカレーライスを作り、友和を図っている。
3. 秋には「さつまいも」掘りを140名の児童と低学年の生徒の保護者により、色々なゲームをし、「いも掘り」大会を盛り上げてきた。

以上、新興団地、新住民の交じった町になっているが、各組織リーダーとともに色々交流の場を作り、町内各地区がそれぞれ1名でも多くのものが土地になじみ地域を理解してもらえよう、さらに円満な町づくりができるよう、努めなければならないと考えます。

活動を進めていく上での課題

各組織と共同で、より大きく、多くの人々を集められるようにしたい。

活動して良かった点

その年度の思い出にもなり、地域の皆さんに喜んでもらえ、又これらによって公園清掃の場にも親子で来るようにもなっている。しかし参加しないものをどうするかが問題であります。

今後の計画

次回のものに考えて頂きます。



高齢者との会食（からと台ふれあい食事の会グループわらび）

富平 正千代

活動の概要

1990年5月に唐櫃台地域において、唐櫃台婦人会とコープこうべの共催による「老人給食」を実施。地域との関係を大切にしながら「ふれあい食事の会」を推進し、新たな方向の一つとして実現し、9月よりスタート。高齢者の健康に役立つ事を願い、地域の仲間づくりや、ふれあいを大切に、給食を通じて“住みよい地域づくり”を願い地域諸団体との連携を深めながら行う。

活動内容として、月1回第4金曜日にコープからと集会室でひとり暮らしの高齢者、老夫婦世帯への会食方式で、登録料1年間1,000円、参加費500円で、(ボランティアも一緒)現在も変わらない。栄養のバランスを考えた献立作りと、衛生管理など必要に応じて調理指導を栄養士、生協の福祉活動推進にして頂くことで14年が過ぎました。スタート時期と現在では少し変わった所もあります。

活動状況

毎月第4金曜日コープからと集会室で8:30~活動しますが、前日に買い物やテーブル、イスなどの準備をしておく。

当日は使用する食器類外、ナベなど煮沸消毒から始まります。メニューにそって担当ごとに別れて調理に入り、12時までに仕上げ、高齢者が入室、名札とメニュー表を受け取り、参加費500円。各自すきな所に座ってもらう。ボランティアはお茶を出す前に手を拭いてもらい、皆と一緒に楽しい食事。食後はふれあいタイムです。毎月当番4~5名で何かをする。ゲストを呼ぶ事もあります。12月の食事会は、地域のからと保育園児との交流会をしています。(クリスマス会)可愛い園児達が歌やピアノ演奏等。この行事は12年間続いています。これからも続けて行きたいと思います。

活動を進めていく上での課題

ボランティアも15年間続いて、次期のリーダーがなかなか出来ない。

長い間ボランティアをしていると、調理での決まり事など忘れる時があります。食中毒など一番こわいので、お互いに気を付けて、注意しています。

活動して良かった点

地域的に顔見知りが出来、お店(コープからと店)でもお話しや、健康の話など出来て、大変いい活動です。ボランティアさん1人に2名ほどの高齢者の連絡係を定めています。食事会前々日に必ず出欠の返事をしてもらってます。

今後の計画

15年目の9月は私達ボランティアが何かふれあいタイムにしようと話合ってます(南京たますだれ等)。

100回記念の時は、ボランティアが演奏とお遊戯をしました。



高齢者支援・児童と高齢者との交流（輝わかな）

松谷 美佐子

活動の概要

災害復興公営住宅高齢者元気アップ活動支援事業

H A T 神戸県営協の浜高層住宅...震災後、仮設住宅から復興住宅へ引っ越され、近所付き合いもなく閉じこもりがちな高齢者の仲間づくりの場の提供

生きがい対応型デイサービス

引きこもりがちで孤立してしまう高齢者、要介護者に何か生きがいになるものを見つけてもらう機会として実施

ふれあい喫茶ひまわり

高齢者、要介護者に対する仲間づくりを支援するためのふれあいの場として

活動状況

H A T 神戸県営協の浜高層住宅、自治会長さんの大きなご協力もあり、活動が順調に進められた。バス旅行、夕涼み会、映画会、民謡教室、手芸教室、日曜喫茶、ラジオ体操など多くの事業の中で特に、バス旅行と夕涼み会に人気がありました。私達が思っていたより大勢の参加があり、嬉しい悲鳴！自治会長さんが今までに何度となくお誘いしても駄目だった方々のお顔が見えた時に自治会長さんの目に涙... この活動をして本当によかったとスタッフ一同感激！

中央小学校多目的ルームにおいて毎週火曜日AM9：30～PM2：30、昼食をはさんで約5時間、朝の体操にはじまり、大きな声を出して歌を歌う。表千家のお茶席体験手芸講習、ゲーム、カレンダーづくり、ミュージックベルの練習（年に一回の発表会を目指して）、小学校の授業の一環として昔の遊びを教えたり、昔の生活の様子を話すなど、児童との交流も行います。また利用者さんのご希望で誕生会、バス旅行など楽しんでいます。

若菜地域福祉センター2Fにおいて、日曜日AM7：30～AM10：30にコーヒー（または紅茶）、トースト、ゆで卵を約3時間賑やかにそれぞれのテーブルで遠慮なく和やかな雰囲気の中で楽しいおしゃべりの声が弾みます。日曜日の朝が楽しみに喜んで頂いています。

活動を進めていく上での課題

利用者さん間の確執などの問題をボランティアとして何処まで関与してよいか。

活動して良かった点

高齢者と児童が世代を超えた交流ができ、それぞれの世代のことを学びあえたこと。

利用者さんが最近明るくなり、参加することを楽しみにして下さる。又、お友達が増えたと喜んで下さること。

今後の計画

現在の事業を継続して行きたい。修学旅行生の受け入れ。



高齢者の助け合い（さくらんぼの会）

青木 徳蔵

活動の概要

- 1．町内高齢化に伴い、特に一人暮らし老人の場合、日常生活上出来づらいことが生ずると思われるので、依頼があれば援助する。
- 2．自主的に、町内の防犯パトロール

活動状況

毎月2回定例会開催、うち1回は昼間町内パトロール

- 1．日常生活上出来づらいことのうち、特にゴミだしについては玄関前からゴミステーションまでの搬出を援助することとしている。
- 2．パトロールは、3班（1班4～5人）に分かれて、町内一巡。
- 3．定例会では健康、防犯、その他情報交換。

活動を進めていく上での課題

日々の買い物は、販売店の配達を利用するケースが多いので、今のところ除外。知人には家や生活の内部を見られたくない意向が強く、忌避される傾向がある。が、旅行中庭の花木の水やり、ペットの世話等に他地域のボランティアに依頼している向きがあり、日常生活に全く支援の余地がないわけではないので、受け皿としての存在を気長にアピールしていきたい。

今後の計画

定例会の開催を重ねることによって、町内の多くの人に入会してもらおうチャンスを作りながら、助け合いの輪を広げたい。

高齢者の自立支援・地域の環境美化（輝わだみさき）

小西 宏子

活動の概要

地域に密着した活動

- 高齢者の自立支援をするためのミニデイサービスの実施。
- 高齢者の自立支援をするための通院介助など。
- 地域の環境美化・人材活用・高齢者の自立支援を目的とした御崎公園園地の除草作業。

活動状況

- については毎週1回、地域内の高齢者を対象に実施。
- 利用者の要望に個々に応える形で実施。
- については毎月2回、園地周辺の住民に参加を呼びかけて実施。

活動して良かった点

- 高齢者の自立支援という目的にかなった事業を行うことができた。
- 活動の実施にあたって、地域・事業者の協力と理解が得られたこと。

今後の計画

引き続き実施していく予定。

高齢者が高齢者のお世話（NPO法人輝たかまる）

杉山 カ子

活動の概要

毎週（日）（水）10名～13名のおとしよりに生きがいを感じてもらおう生きがい対応型デイサービス活動。お世話する私たちも65歳以上が多い。転倒予防の体操、頭いきいき体操（ジャンボお手玉や、ゴム管で作った輪、ボールなど使用）、ハンドベル演奏、折り紙絵手紙など、毎回変化をもたせて、楽しんでもらっている。

青少年むけには、垂水のまちの魅力を高めるため、「いかなご」を主人公に一般公募で誕生した「いかなごGO!GO!」（区民の若い人の作詞・作曲でH12年に輝たかまるが中心になってできた曲）に区内の音大生がふりつけ、三世代が楽しく踊っている。垂水区のイベントには必ず出演。区民に親しまれている。H13年CDも作成。

活動状況

毎週日曜日は高丸小学校の空教室で生きがいデイサービス。

毎週水曜日は輝たかまる事務所で生きがいデイサービス。

参加者は日曜日、水曜日共10名 13名位。

地域福祉センターでの催物にはハンドベル演奏や民謡で出演している。

介護保険の世話にならない元気なおとしよりになるよう毎週明るく参加している。

「いかなごGO!GO!」は、毎年2月末から3月いっぱい、JR垂水駅東口へ降りると、メロディが聞こえてくる。～くぎ煮ダンスでGO!GO!～垂水の春はくぎ煮から。「くぎ煮」うで自慢コンテストも毎年3月に開催。上位10名には「名人・達人・鉄人・師匠・博士・教授・家元」などの称号を与えている。

活動を進めていく上での課題

おとしよりが喜んで参加出来るよう、毎回内容に工夫しているが、個性豊かなおとしよりが満足するよう、世話係（ヘルパー）の私たちも努力している。

活動して良かった点

おとしよりの元気な笑顔や、ふれあいの出来なかった人が仲間に入り笑顔を見せて、喜んでくれた時。

「楽しかったよ」と声をかけてもらった時など、私たちも元気をもらい、本当によかったと思う。「いかなごGO!GO!子どももおとしよりもGO!GO!」と明るくダンスしている姿をみる時、街にメロディが流れている時、私たちも嬉しい。

今後の計画

平成13年1月から続けています。これからもこの活動を続けます。垂水健康公園へ花ももの木を平成14年4月に150本植樹、そして昨年、50本増植して200本の花もものが3月末から4月にかけて美しく咲きます。今年3月27日また花ももの木50本を増植し、垂水桃源郷づくりを目指しています。桃源郷まつりを開催します。

その他報告すべき事項・提案

垂水の商店街の活性化を願い、空店で主婦の手づくり品や古本・古着を並べています。買い物に来た人がひとやすみ出来るよう、通路を利用してコーヒー、紅茶を100円で提供して、喜ばれています。「コミュニティサロンひまわり」として親しまれています。平成13年9月からです。



ふれあい喫茶・敬老会・歳末の一人暮らしの方を訪問（婦人会役員グループ）

田中 節子

活動の概要

ふれあい喫茶 = 毎月第2土曜日（8:00～10:00）、第4土曜日（13:00～15:00）福祉センターで開催。

敬老会 = 地域の70歳以上の高齢者を招き、体育館にて婦人会他の方達の演芸を観て頂く

歳末一人ぐらしの高齢者を訪問 = 年末お見舞を持って一人ぐらしのお年寄りを訪問して廻る（約300人）

活動状況

ふれあい喫茶 = 個人より¥100頂く。第二（コーヒー、パン、果物、サラダ）第四（コーヒー、ケーキ、クッキー、果物）約60名～90名こられ、和気あいあいとひとときをすごされています。

敬老会 = 750名位招待しますが、約半数の方がこられます。毎年たのしみにされています。

歳末訪問 = 一軒一軒会員の方達が廻られ、お見舞品を手渡しお話し相手などをします。一人ぐらしの老人の方には、とてもよろこんでいただいています。

活動を進めていく上での課題

敬老会は42年、喫茶は10年継続していますが、会員達自身も高齢になり、いつまで続けられるか心配です。若い人はあまり会員に入ってもらえませんが先行き不安です。

活動して良かった点

- ・いつもお年寄りの方の笑顔が見られる事が大変うれしいです。
- ・私達の地域は、他地区よりも高齢者の方が住みよい町として喜んで頂いている事。
- ・地区の大勢の方が、顔見知りになれる事。

今後の計画

現状を維持していく事です。

その他報告すべき事項・提案

私の地域は年間イベントの多い地域で、それも地区の諸団体が合同で一つのイベントを行っています。（婦人会もいつも参加しています）

2月 寒もちつき（つき上がったもちを1人ぐらしの老人に配布しています）

4月 花まつり

7月 七夕まつり 高齢者の方をいつも招待しています。各団体が模擬店を出す。

8月 盆踊り

その他婦人会より高齢者、身障者の方に使って頂くように、毎年車椅子3台を区の福祉課（善意銀行）へ寄贈しています。



高齢者が高齢者のお世話をする

伴 淑子

活動の概要

何らかの形で「高齢者が高齢者のお世話をする」ことにかかわっている人達が集まり、自分達に何が出来るか、それを具体的に活動するにはどうすれば良いか等の話し合いからグループは始まりました。しかし、メンバーの中に実際にデイサービスにかかわっている人が多く、その中からの悩み等も多く出てくるようになりました。メンバーに老人介護に大変詳しい人があり、自然とその方を中心に会がまとまってきたのは、大変良かったと思います。

話し合いの中からお世話する方も知識を得ることが大切であると、何度か学習会も開かれました。個人ではなかなか出来ないことですが、他のグループの方も含めて、取り組むことが出来ました。

活動状況

私が所属している魚崎婦人会では、神戸市からの委嘱を受けて、一人暮らしの高齢者を中心に、地域の福祉センター等を利用して、1週間に1回、1ヶ月に4回のデイサービスを行っています。このグループでの話し合いと、学習会で得たことを、デイサービスで実践することが出来ました。例えば9月に行われた音楽療法研修で学んだことを、デイサービスでのミュージックベルの演奏に生かせることが出来ましたし、春になれば淡路園芸学校で学んだことを実際に皆さんと楽しんでみたいと思っています。

活動を進めていく上での課題

一年目は、同じ「高齢者が高齢者のお世話をする」というテーマに集まったメンバーですが、立場、目的も異なっていたため、何を中心に置くかということがまとまりにくく、あまり進展のない集まりに終始しました。二年目からは、少しまとまり、参加して良かったと思いましたが、やはりメンバーの中に、会を進める中心になる人が必要だと思いました。

活動して良かった点

今、地域で参加しているデイサービスで利用出来る「音楽療法」や「園芸療法」、また、これから学習する「ターミナルケア」等の学習が出来たことが、とても良かったと思えました。

その他報告すべき事項・提案

2年間参加しましたが、ビジョン委員会が、学習の場なのか、地域活動の交流の場なのか、提案の場なのか、わからないままに終わってしまったのを残念に思います。目的をもっとはっきりさせるためにも、もう少し回数多く集まる必要があったのではと思いました。



高齢者が高齢者のお世話をする（輝すてっぴ）

天満千香栄

活動の概要

高齢者・要介護者に対する家事援助サービス（実施場所日時とも随時）

あんしんクラブ...家事支援、庭の草木の水やり、草抜き、病院への付添い、薬とり代行。

カーボランティア...病院その他外出時の移送

高齢者・要介護者に対する給食・配食サービス

毎週月曜日...スタッフで手作り弁当を作り、安否確認をかねて宅配する。

毎週金曜日...サテライトデイサービス用の昼食用手作り弁当、給食作り

子育て支援

つくしキッズ(月2回)...子供同伴のお母さん達が集い、一緒に遊んだり子育てについて勉強

子供の一時預かり、幼稚園送迎の付添いなどしてサポートする

ふれあいコミュニティ作りの為の軽食、喫茶「サロンつくし」を開催。(日曜日毎月1回)

福祉活動に係わる人材養成講座の開講。(16年7月~11月)

ホームヘルパー2級(昨年は3級)養成講座を近隣地域の人達のために開講。

生きがい対応型デイサービス(神戸市からの委託事業)...毎週金曜。

トライやるウィーク...中学生の見学実習生の受入れ、高校生ボランティア実習生の受入れ

活動状況

については、地域住民の要望・依頼のみならず、近隣の病院からの要請も受けて行っている。

に関しては、家庭の手作りが好評で楽しみにされているし、独居の人の安否確認に役立っていると自負している。(60食~90食)

子供の数が減っており、対象者が減少傾向にある。

地域での世代間の交流に役立っていると自負。同時にガレージセールも行っており、各世帯の不要品の活用・交換の場にもなっている。

地域での人材養成講座は、若年者の就業にも役立っており(三宮・元町へ出での学習は経費もかかることから)大変喜ばれている。又、定年を迎えた人達にとってもこの講座受講で新たなボランティアへの第一歩をあゆみ出している人もいる。(16年度21名修了)

閉じこもりがちな独居老人の介護予防や、生きがい作り、精神的支援を行っているが、デイサービスの来訪時のみならず、地域でいつも顔を合わせ声かけができる利用者とスタッフの関係なので、他の福祉施設、病院関係のそれとは又異なり、日頃の状況が把握しやすい関係にあり、より見守りができる。

活動を進めていく上での課題

についてメンバー(利用者)がやや固定化する傾向にあり(女性ばかり)、男性利用者が入りにくくなっている。(開所は14年10月からであったが)これまでに2度ばかり希望者が訪れたが、圧倒され(?)入所をあきらめられた様子。この点をどうにか打破したいと願っている。

活動して良かった点

について家庭人の手作り弁当の宅配は、弁当専門業者のそれと異なり、経費の点でも大変ではあるが、配達時の安否確認の意味も大きく、利用者に変喜ばれており、感謝の言葉をきくことが多いので、引き続き発展させてゆきたい。

に関して、前述したとおり、他の保健福祉施設又は福祉施設事業者が行うデイサービスと異な

り、介護状態になる前の、あるいは軽度の介護状態の方のための高齢者の方々を対象とする、地域でのデイサービスは有意義と考えている。

今後の計画

に関して、新規の場所での開所を予定（生きがい対応型デイサービス）している。比較的近隣地域に、我が街と同じ頃造成された新興住宅地があり、そこでもかなりの住民の高齢化が進んでいる。その地域で一部の人々の要請もあり、縁あって、この地域で「生きがい対応型デイサービス事業」を開所できれば、との思いで目下その準備をすすめている。



高齢者・障害者・子育て支援（輝こまがばやし）

北村 美代子

活動の概要

震災後元気をとりもどして元気アップにつなげるように、地域福祉センターにて月2回（第1、第3火曜）ふれあい喫茶モーニングサービス 130～140名参加を開催。月2回（第2、第4火曜）生きがい対応型デイサービスを10:00～15:00まで地域の皆様とコミュニケーションづくりにはげみスタッフもその元気をもらって明日つなげています。

又、大きな行事としては年3回、ふれあい祭り、子供達とお魚のつかみどり、年末にはおせち料理を親子で挑戦していただいて試食、この3月12日にも源平歴史ウォークとして長田区役所の協力もありましたがイカナゴフルコースをもてなして750人も参加でくたびれました。（イカナゴくぎ煮、イカナゴ入りまき寿司、玉子とじ）

活動を進めていく上での課題

活動するのも資金がいります。その資金作り、書類作りに頭をいためます。

活動して良かった点

参加してよこばれる顔を見て私達も元気をもらいます。

新湊川を守り育てる会

吾妻 義信

活動の概要

平成 15 年 4 月、新湊川を守り育てる会、結成後の活動

平成 16 年 9 月 12 日 第 1 回新湊川まつり開催。

和太鼓パフォーマンス～主催者挨拶続いて来賓祝辞、幼稚園児約 20 名と市議会議員は川に魚を放流、金魚・ドジョウ、ステージゾーンは湊川中学プラスバンド演奏、消防音楽隊コンサート、自衛隊音楽隊コンサート等が実施され、イベントゾーンは出店縁日：タコ焼き・あてもん・お好み焼き・かき氷・スーパーボールすくい等。

地域住民や商店街の皆々様など参加と協働で実施された。

活動状況

- 依然として河川への不法投棄が減少している。自分たちの手で、この川を昔のように魚等が住める美しい、きれいな川にしよう。また、生物の生息空間である、せせらぎ水路に通じて、ふれあい親しむことで水辺の生きものの生態系が変質していく実態を観察する行事を推奨して行きたい。
- 以前よりかなり美しい川になってきましたが、それでもペットボトル、ビニール袋、空き缶、空きビン、犬の糞、自転車など投棄される。清掃活動を見てくれた方々が、少しでも美しい町づくりの意識をもってもらいたい。

活動を進めていく上での課題

2 年程前は散歩している人や、遊んでいる子どもたちを見ることがありました。魚や昆虫を観察、生態を知ることができました。(せせらぎ水路も同様)

最近(1 年半)前からは魚やカニ、昆虫等がいらない。川に問題があるか、水質が悪いのか調査の必要がある。子どもを見かけない。鳥(色々)も飛んでこない。(ハトの糞にこまっている。)

今後の計画

川は地域のみんなの財産です。最近では生活の中で川と接する機会が減り川の存在を忘れがちです。

平成 14 年新湊川隧道、平成 15 年新湊川を守り育てる会、平成 16 年新湊川 9 市民公園と完成しました。

今一度地域の財産を見つめ直し考えることで、住民相互の交流、ふれあいの場と考え、イベント等を行いたい。

元栄海四丁目町内会、新和会

宮本 弘之

活動の概要

随時美化清掃、唐櫃無縁仏、震災碑、輪投げ大会、グランドゴルフ、小旅行

活動状況

10 名～30 名参加

活動を進めていく上での課題

若年層の協力が難しい。

活動して良かった点

親睦と満足感。

今後の計画

継続は力。

その他報告すべき事項・提案

他所人に頼らず、各戸が眼前足元を一日に二回は清掃すれば、美しい街に。

特にタバコのポイ捨て等モラルマナーの徹底教育を幼児時代から励行されればこの節、生命の大切さも判らない様子が心配です。

菊水町 8 丁目自治会

川浦 廣一

活動の概要

向三軒両隣の普及
健康講座。
子供達とお年寄りのいも掘。

活動状況

向三軒両隣が、協力し助け合い、自分達で生命、財産を守り、行政、NPOに援助を受けず、自分達の町は自分達で守る精神をもって頑張っています。

毎年 1 回地域のお医者さんをお願いし、住民の健康のために其の年の流行病について講演をお願いして、住民の健康の為に尽力をつくして、おります。

核家族の家庭が多く、御祖父さんや御祖母さんと一緒に暮らすことがありません。お年寄りも、一番楽しみにしているのは、孫さんと遊ぶ事です。

活動を進めていく上での課題

無理に進めるのではなく、自然に入って行く様にすること。
参加を強制するのではなく、住民自身が進んで参加する様にすること。
子供やお年寄りに強制するのではなく、自然に参加する様にすること。

活動して良かった点

買物や留守にする時、近所をお願いすれば、喜んで引き受けてくれます。
自然に笑顔で挨拶する様になった。
講演を聞いたあと、日常生活に役立てています。
子供やお年寄りが会った時、自然にお早う、今日はおと挨拶する様になった。
子供はお年寄りより、昔の遊びやお話を聞いて大変喜んでます。

道場町自彊自治会

下岡 一則

活動の概要

武庫川右岸の地区内堤防を整備し、四季の道路として朝、夕の散歩道路、春、秋の行楽時の散策道（JR三田駅～JR道場駅）として、道場町の桜づくみに連結、河川愛護活動をめざす。

活動状況

年間 3 回の草刈り清掃を実施（自治会 83 軒全員参加）

活動を進めていく上での課題

いばらの道であったが、今年で 3 年目の草刈を実施し、いばらが少なくなりやさしい草になって来た。

最終的にはアスファルト簡易舗装が必要。

活動して良かった点

人も通れなかった堤防道路がでこぼこはしているが通れるようになった。（完成後を楽しみにしている。）

今後の計画

猪が武庫川を渡って里に来る。電さくで防御するのでこの堤防を遊び場にするため穴だらけになっている。（対策が必要）ガードレール等、自治会里づくりの仕事として今後も引き継いで行く。

その他報告すべき事項・提案

行政の力を最後にはお借りしたい。簡易舗装、ガードレール設置等。

高羽地区での諸行事

大谷 博美

活動の概要

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. 高羽地区新年交歓会 | 1月 |
| 2. 防災福祉放水訓練 | 1月 |
| 3. 高羽地区の生活マナーを考える | 2月 |
| 4. わいわい祭り | 5月 |
| 5. 高羽地区防災訓練を実施 | 5月 |
| 6. 愛知豊正中学校修学旅行生徒受け入れ | 6月 |
| 7. 子供盆踊り大会 | 8月 |
| 8. 高羽地域敬老祭 | 9月 |
| 9. 年末特別警戒 | 12月 |

活動状況

1. 高羽地区新年交歓会 来賓には行政からも 20 数名の方に来場して戴きました、総数 80 数名でした。
2. 防災福祉放水訓練 消防署からポンプ車が来て地域防災委員又地域住民が参加 50 名余
3. 高羽地区の生活マナーを考える 行政と共に地域住民と行政側 8 名地域住民 30 数名
4. わいわい祭り 各種団体が青空市場形式で参加団体 20 団体来場者 2,500 名余り
5. 高羽地区防災訓練を実施 わいわい祭りに併せて行います。子供達がハシゴ車で高い所にすると上がって行きます。
6. 愛知豊正中学校修学旅行生徒受け入れ 16 年 6 月生徒 92 名引率教師 8 名震災の神戸を目で見る体験修学旅行でした。
7. 子供盆踊り大会 毎年 8 月に 2 日間行います。来賓の方も多く来場して戴きました。参加者 2 日間延べ 5,000 名余。
8. 高羽地域敬老祭 77 才以上の方にはお祝いの品を送ります。昨年は該当者は 680 名の方でした。
9. 年末特別警戒 高羽地域各種団体による行事です。

今後の計画

今年度は昨年愛知豊正中学校生徒の受け入れは取りやめます。

後の行事は例年通り行います。

本年度から新しく兵庫県指導のもと高羽協議会まちづくり防犯グループを結成し、又神戸大学生（グループ 40 数名）による自主防犯グループ「ドリーム・プランター」の団結式が 2 月 19 日に行いました、新しい活動が始動いたしました。

円卓会議

藤井 覚夫

活動の概要

「担い手の連携」グループに所属し「榎野台6丁目円卓会議」の運営に参画してきました。

地域ビジョン委員の先輩である黒田裕子氏のご指導を得て二ヶ月毎に定期的開催をしてきました。円卓会議の構成は今のところは、榎野台6丁目自治会、老人会、婦人会、子供会、学校開放委員会、建築協定運営委員会の役員ならびにその経験者、ボランティア活動をしている方々で構成している。将来的には、特技を持つ人達に拡大していく予定。

従来、ともするとそれぞれの組織の活動にとどまっていたものを、相互に活動報告を行うことからそれぞれの持つ特定点、問題点等を共有することにより、相互に協力しあうような方向に向かってきつつある。

例えば、自治会の祭りの復活、防犯対策の強化の第一歩として防犯協会への直接加盟と講習会の開催、巡回の強化、学童保育の子達の送迎のあり方の検討と要員確保への協力、榎野台サブセンター構想へのかかわりを強めるため公共用地の活用方法の検討を始めようとして「榎野台サブセンターを考える会」(仮称)の立上げの検討を開始しようとしている。引き続いてこの活動を行っていききたい。それに加えて、私としては、介護保険の改訂でいうところの予防介護のあり方について「茨城方式」の検討を行いたい。

活動を進めていく上での課題

各種団体の役員と経験者にしぼられてきている点が問題。
自主的組織を起こすことの検討が必要か。

活動して良かった点

各団体間の実状と問題点が判明し、互いに協力し合う雰囲気が出てきた。
参加者間により親密に話し合いが出来るようになった。
イベントとに各団体が協力しあえるようになった。

今後の計画

榎野台サブセンターの公共部分の土地の活用について、私たちが素案をつくり、榎野台区域全体で検討会を持てるように努力したい。

その他報告すべき事項・提案

個人的には、予防介護を「茨城県方式」を参考にして、老々介護を広げたい。出来れば兵庫県方式を創り出したいと思っています。

生涯学習活動の「場」づくり (KWFアラカルト)

久保 幸子

活動の概要

学校やPTAはじめ自治会など地域のふれ協、民児協、婦人会、福祉団体そして、社協をとりまくあらゆる層なども連携しながら生涯学習活動の延長では、市民講師として「地域づくり」のサポートも行ってきた。

対象者は、地域におけるあらゆる課題に直面している団体が多いことは無論だが、「人的ネットワーク」の難しさのテーマは、限りなく「コミュニケーションをうまくしてゆくにはどうしたらよいか」が常に話題となっている。演習トレーニングをするケースもある。

活動状況

具体的には、次の ~ の「トライアングルサーキット」を「仕掛け」「ネットワーキング」化に取り組んでいる。

子ども達の活動の場づくりは、トライやるウィークの中学生と施設でのロールプレイを！

子育て中の親（父・母）達の活動の場づくりは、子育て支援サポートを！

青少年達の活動の場づくりは、施設における体験学習やイベントづくりのサポートを！

シニアの人達の活動の場づくりでは、コミュニティネットワークづくりをすすめる

高齢者の人達の活動の場づくりでは、ボランティアネットワークづくりをすすめる

障害児者など弱者にあたる人達の場づくりには、施設や作業所でのサポート

活動を進めていく上での課題

震災がもたらした多くのボランティアは、今や社会的な潮流の観にあるが、果たして21世紀における人と人とのコミュニケーションはどうだろうか。うまくチャンネルは合っていくのだろうか。そして問題はないのだろうか。危惧するところである。

活動して良かった点

それぞれの立場で、誰もが「場づくり」に参加できる「時」が確立されつつあるということ。

今後の計画

地域をとりまく学校、家庭がそれぞれ異質性を持ちながらも、独自の働きをしながら、常にトライアングルの相互作用を持つと考えられるため、上手にコミュニケーションしながらコーディネートし、コミュニケーター（仮称）の養成を行っていく。

その他報告すべき事項・提案

公共機関などの開放や地域におけるさまざまなボランティア団体の活動をサポートしながら、「ネットワーキング」の手法について事例研究したり、研究発表をしながら今後も、提案につなげていきたいと思う。

美しく住み良い地域づくり（灘中央婦人会）

寺田 美和子

活動の概要

地域の和を大切に
美しく住み良い住環境を作る努力
生きがい対応型デイサービス実施
婦人団体協議会の絆大学で子育て研究に出席
資源回収実施

活動状況

消費学級他各種のクラブを作りたのしく輪を広げる
月2回幹線道路公園などの清掃を実施（第1日曜、第3火曜）
月に4回のデイサービスで高齢者の方々とふれあい毎週火曜日子育てルームに参加（子育て研究リーダー）
月2回8拠点を作り資源回収実施（第2・4金曜日）

活動を進めていく上での課題

活動プログラムは、幹事会（各町に1人）で協議しています。
1人でも多くの人に協力していただく努力が必要だと思う。

活動して良かった点

廃品回収に関しては、拠点と曜日が浸透し、協力者が増えた事。
ゴミの減量、環境に関心をもてた事。

今後の計画

現在行っている婦人会での事業を継続する清掃に関しては、早朝（6：30）のため協力者が少なくなってきたので幹事会を開き見直しが必要。

とうもろこしグループ

大伴 洋子

活動の概要

婦人大学で「とうもろこしから作る環境にやさしい繊維」について学習して、「生分解性プラスチック」の存在を知りました。
卒業後はとうもろこしなどを原料にした植物から作るプラスチックについて、使用後は土に還り、自然に戻すという循環型の環境にやさしい「生分解性プラスチック」を研究しています。

活動状況

- * H15年度、16年度に兵庫県省資源、省エネルギー運動県民大会において実践発表を行いました。
15年度：地球と人にやさしい繊維～とうもろこし繊維～
16年度：プラスチックごみについて
- * H15年12月に神戸消費者フェスティバルでは「地球にやさしい繊維」についてパネル展示と研究発表を行いました
- * 地域のデイサービスに招かれて、プラスチックごみの分別方法や環境問題について情報提供、また収集しながらの啓発運動を行っています

活動して良かった点

目的を持って学習できること 知らないことを学ぶ楽しさ

今後の計画

「植物から出来るプラスチック」はとうもろこし以外にもあるので、「竹」について研究する予定です。

担い手の連携を進める

稲荷 眞三

活動の概要

担い手の連携の会議に参加することで精一杯である。

活動状況

のじぎく大会（12月3日～5日）が六甲アイランドで開かれた。

地域ビジョン委員会の会合に、地元の自治会幹部4名が参加することができた。

上記とあわせて、異文化交流ともちつき大会を開くことができた。

但し事前のボランティアが不足するという状況が1週間前に知らされるという、後手な体制に困った。

学校評議会（向洋中）にも委託をした。

活動を進めていく上での課題

地域ビジョン委員と県の諸会議との連携、事前に調整しておくとう効率的な活動になると思う。

県政（区）説明会との位置

県の各種助成にともなう、説明・報告会

地域での県主催の事業との関連。（昨年末の芸術、文化祭）など

活動して良かった点

各種の会合で多くの委員の方々と出会いの機会ができたこと。

その他報告すべき事項・提案

行政（県・市）が六甲アイランドCITY自治会が大規模団体（単一）であるという理解ができていない。そのため、非効率的なことになる場合が多い。今後、六甲アイランドでの事業をすすめる場合、実態をつかむようにしていただければと思います。

ユーカーリの会

前田 雄三

活動状況

「元気出そうぜ！市民の皆さん」と旧神戸二中、県四校高女、兵庫高校卒の有志とフェニックス・プラザ三宮で定期的にフォーラム開催。

「21世紀を生きる若者に夢と希望を！」「地球は1つ。争いを止めて手をつなごう」と国内外の男女と交歓・助力。

「いつでも・どこでも・誰とでも～」「1人の100歩より、100人の1歩前進・向上」を目指し、コミュニケーションに努めた。

「ハンド・イン・ハンド」の心で地域・グループ間のネットワーク拡大を図った。

活動して良かった点

他人の言い分を十分に聴き、納得できるまで対話し、相手の立場になってものを考えると、どのような人とも理解し合えるということが分かった。